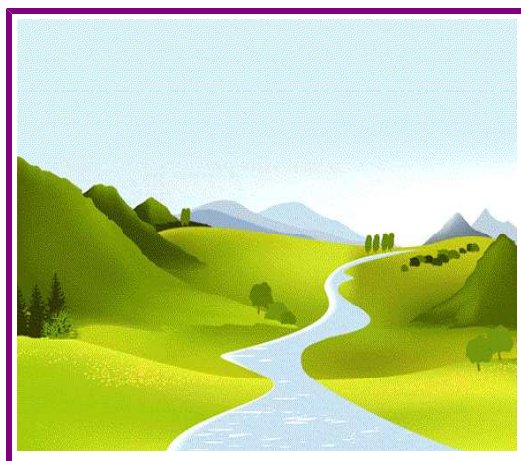


めぐみイエス・キリスト教会

2020年8月23日(日) 第四主日礼拝
週報「通算第520号」



2020年標題聖句

第 I テサロニケ5章16節～18節

《いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべての事について、感謝しなさい。これが、キリスト・イエスにあって神があなたがたに望んでおられることです。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2020年8月23日 第四主日礼拝 午前10時
司会 鈴木竜実牧師 奏楽 佐野みゆきさん

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌254「心にあるこの安きを」 p. 394

【交読文】 No.58 コリント人への手紙Ⅰ 第15章 p. 926

【賛美Ⅱ】 新聖歌428「キリストには代えられません」p. 690

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.2「あなたと共にいつまでも」

【聖書朗読】 使徒の働き4章8節～14節 (2017新約p. 238下段)

【礼拝説教】 《知っていただきたい》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所 使徒の働き4章8節～14節

4:8 そのとき、ペテロは聖霊に満たされて、彼らに言った。「民の指導者たち、ならびに長老の方々。

4:9 私たちが今日取り調べを受けているのが、一人の病人に対する良いわざと、その人が何によって癒やされたのかということのためなら、

4:10 皆さんも、またイスラエルのすべての民も、知っていただきたい。この人が治ってあなたがたの前に立っているのは、あなたがたが十字架につけ、神が死者の中からよみがえらせたナザレ人イエス・キリストの名によることです。

4:11 『あなたがた家を建てる者たちに捨てられた石、それが要の石となった』というのは、この方のことです。

4:12 この方以外には、だれによっても救いはありません。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は人間に与えられていないからです。」

4:13 彼らはペテロとヨハネの大胆さを見、また二人が無学な普通の人であるのを知って驚いた。また、二人がイエスとともにいたのだということも分かってきた。

4:14 そして、癒やされた人が二人と一緒に立っているのを見ては、返すことばもなかった。

●ポイント1.「ナザレ人イエス・キリストの名」とは？

※ヨハネの福音書18章4節～8節「誰を探しているのか」(新約p.222上段)

18:4 イエスはご自分に起ころうとしていることをすべて知っておられたので、進み出て、「だれを捜しているのか」と彼らに言われた。

18:5 彼らは「ナザレ人イエスを」と答えた。イエスは彼らに「私がそれだ」と言われた。イエスを裏切ろうとしていたユダも彼らと一緒に立っていた。

18:6 イエスが彼らに「私がそれだ」と言われたとき、彼らは後ずさりし、地に倒れた。

18:7 イエスがもう一度、「だれを捜しているのか」と問われると、彼らは「ナザレ人イエスを」と言った。

18:8 イエスは答えられた。「私がそれだ、と言ったではないか。私を捜しているのなら、この人たちは去らせなさい。」

※ヨハネの福音書19章19節「ピラトの罪状書き」 (新約p.225下段)

19:19 ピラトは罪状書きも書いて、十字架の上に掲げた。それには「ユダヤ人の王、ナザレ人イエス」と書かれていた。

●ポイント2.「捨てられた石が要の石に」とは？

※詩篇118篇22節～23節「第二神殿建設時の伝承」 (旧約p.1059下段)

118:22 家を建てる者たちが捨てた石それが要の石となった。

118:23 これは【主】がなさったこと。私たちの目には不思議なことだ。

●ポイント3.「私たちが救われるべき名」とは？

※ヨハネの福音書17章20節～26節「主イエスの祈り」 (新約p.221上段)

◎先週のメッセージの概要【ユダヤ最高議会において】

《ペテロとヨハネは、新しく教会に加えられたユダヤ人の兄弟たちに、主イエスのみ言葉を教える為に、「ソロモンの回廊」にやって来ました。

美しの門にて物乞いをしていた青年もいやされ、二人と共にいます。すると、その噂を聞きつけて大勢のユダヤ人たちが集まって来ました。そこへ祭司たちサドカイ人がやって来たのです。サドカイ人とは、サドカイ派に属する者たちのことで、その多くは、祭司長や祭司で、彼らは宗教的指導者であると同時に、政治的指導者でもあったのです。彼らは体のよみがえりや死後の世界の存在を否定していました。そして守衛長に命じてペテロとヨハネを捕らえたのです。その理由は「イエスの復活」を宣べ伝えていたからです。二人は翌日まで留置される事になります。

さて、翌日ユダヤ最高法院が招集されました。ルカは、この議会でエルサレム中の議員や民の指導者たち全員が集まったと書き記しています。特に驚くべきことは、主イエスを十字架にかけた張本人である大祭司たちが全員集まったことです。かつて主イエスが、たった一人で立たされた被告席に、今度はペテロとヨハネが立たされています。

「あなたがたは用心していなさい。人々はあなたがたを地方法院に引き渡します。あなたがたは彼らに証しするのです。何を話そうかと、前もって心配するのはやめなさい。話すのはあなたがたではなく、聖霊です。」と、主イエスが言われたこの預言が、今まさに成就しようとしています。

「おまえたちは何の権威によって、また、だれの名によってあのようなことをしたのか。」大祭司カヤパが尋問します。

「何の権威」によってか。主イエス・キリストの権威です。

「だれの名」によってか。主イエスの御名によってです。

主イエス・キリストは、昨日も今日もいつまでも変わらないお方です。私たちは、このお方の権威と、その御名を知っている者なのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、8月30日(日)教会にて行ないません。第二礼拝はありません。また、聖書の学びと祈り会は、水曜日に各家庭にて行ないません。東京神学校博士課程同窓会は、無事に終わりました。お祈り感謝します！